

2024年6月刊行予定

最新
書き下ろし小説

朝比奈
あすか
による、

現代社会に生きるさまざまな子どもたちの姿と、
それを取り巻く環境を丁寧な筆致で切り取る著者

いつか、あの博物館で。
～アンドロイドと不気味の谷～

ロボット博物館への校外学習で同じ行動班になった、安藤悠真、長谷川湊、清水陽菜、市川咲希の四人の中学一年生。その博物館には、「美しすぎる」アンドロイドの気象予報士が展示されていた。その日の体験をきっかけに、それぞれがロボットと人間の違いを考える。完璧な美しさや強さを持つロボット、やさしい言葉をかけてくれるロボット、いつまでも死なないロボット……。それでも、ロボットにはない自分だけの心を確認、他者と触れ合い、距離感に悩みつつも気持ちがつながる瞬間を大事に、新しい自分を作っていく——。不思議な縁で知り合った性格や家庭環境の異なる男女四人。彼らの中学一年から三年までの三年間をそれぞれの視点から描いた、現代社会に生きるさまざまな子どもたちの姿を丁寧^{ていねい}に切り取る著者による、中学生たちの日常^{いま}の群像劇。

1976年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。2000年、ノンフィクション『光さす故郷へ』（マガジンハウス）を刊行。06年、群像新人文学賞受賞作を表題作とした『憂鬱なハスビーン』（講談社）で小説家としてデビュー。著書に『人間タワー』（文春文庫）、『自画像』『憧れの女の子』（双葉文庫）、『君たちは今が世界』（角川文庫）、『翼の翼』（光文社）、『ななみの海』（双葉社）など多数。

内容紹介

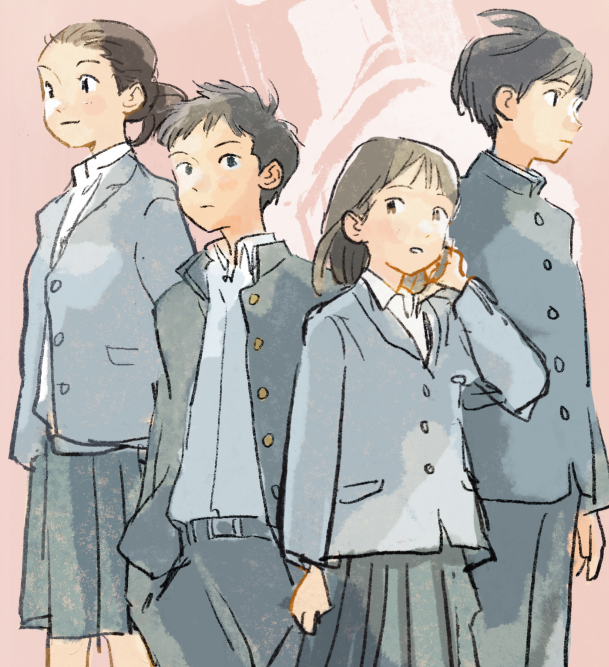
ロボット博物館への校外学習を機に知り合うこととなった
安藤悠真、長谷川湊、清水陽菜、市川咲希の四人の中学生。

彼らの中一から中三までの軌跡を、各人を主人公としたエピソードを軸に追い、ひとりひとりの視点から、この年代ならではの素直さ・率直さ、他者との距離感の難しさや生きづらさ、将来への不安や希望などを、各人を取り巻く環境をふくめて描写した群像劇。発達障害やグレーゾーン、スマホ所持やゲーム依存、不登校や起立性調節障害、ヤングケアラーや貧困、進路選択など、現代の子どもたちを取り巻く環境や抱えている問題を反映しつつ描く、同年代の読者へ向けた葛藤と成長の物語。

『君たちは今が世界』^{すべて}『翼の翼』など、思春期の子どもたちとそれを取り巻く環境を丁寧な筆致で描くことに定評のある著者による、四人の中学生を主人公にした書き下ろし長編小説。

もくじ

- 中学一年 **アンドロイドと不気味の谷**
安藤悠真／長谷川湊／市川咲希
- 中学二年 **ドッジボールと僕らの温度差**
長谷川湊／市川咲希／清水陽菜
- 中学三年 **私たちが出会う新しい私たち**
清水陽菜／安藤悠真／長谷川湊／清水陽菜
- エピローグ 市川咲希



2024年 6月17日^月 申込締切
6月27日^木 配本予定

貴店印	注文数	東京書籍	〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 出版事業部 TEL03-5390-7531	FAX03-5390-7538
	冊	新刊	いつか、あの博物館で。 ～アンドロイドと不気味の谷～ 朝比奈あすか 著	2024年 6月 刊行予定
	ご担当者名： 様			

※取次店様からの見計らい配本はございません。お手数ですが必要部数を記入の上ご返信をお願いいたします。発注ご担当者名も必ず明記下さい。